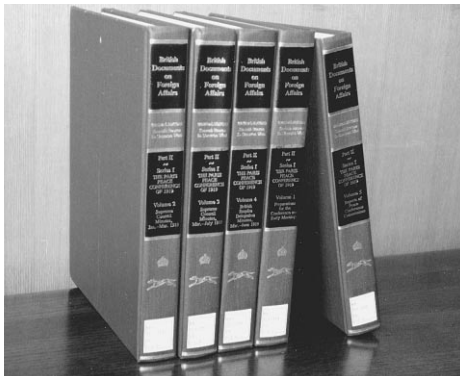
虫ぼし抄

British Documents on Foreign Affairs : Reports and Papers from the Foreign Office Confidential Print.
（英国外務省機密外交文書資料）
Series F-K. **198巻**

藤　野　雅　士



19世紀半ば、イギリスは「覇権」の絶頂期（パックス・ブリタニカ）にあった。当時、世界商船の３分の１がイギリス船籍で、イギリスの工業生産は世界の19.9%を占めていた。「世界の工場」と呼ばれた所以である。国際システム（政治力・経済力・軍事力）のオピニオン・リーダーとして君臨していた英国は、その中枢機関であった外務省を通じて各情報網を駆使し、戦略を打ち立てていた。そのことを実証する本資料は、英国の著名な学者によって編纂され、全体で400巻を越える。英国外交政策の貴重な資料であるとともに、情報収集の対象となった各国の地域や国際関係研究の幅広い資料となっている。

今回の購入資料は以下のような198冊の構成となっている。

シリーズＦ　ヨーロッパ関係（1848－1914：35巻、1919－1937：67巻）
シリーズＧ　アフリカ関係（19世紀半ば～第１次世界大戦：25巻、第１次世界大戦～第２次世界大戦：30巻）
シリーズＨ　第１次世界大戦（1914－1918：12巻）
シリーズＩ　1919年パリ講和会議（15巻）
シリーズＪ　国際連盟（10巻）
シリーズＫ　経済問題、文化的プロパガンダと英国外務省の改革（４巻）

これらシリーズＦ～Ｋは、上記のとおり1850年以降の経済状況、第１次世界大戦、またその処理を行ったパリ講和会議、ヴェルサイユ条約、国際連盟の設立に至るまで英国をはじめ五大国が大きな役割を担った当時の資料を包含している。

また、関西大学図書館はこれまでシリーズＡ～Ｅ（ロシア・ソ連、中東、北アメリカ、ラテンアメリカ、アジア）の機密外交文書に関わる資料をすでに収蔵しており、今回の購入資料と併せ持つことにより19世紀半ばから20世紀前半における英国外交政策の一大コレクションを形成することになるだろう。

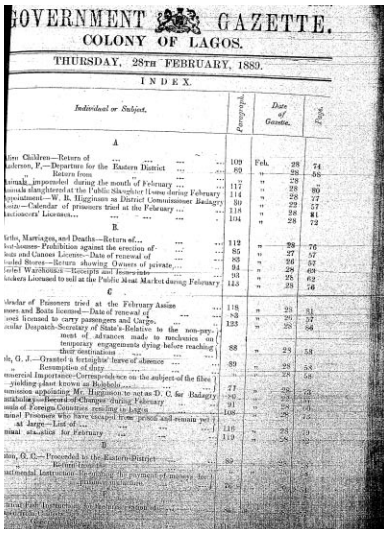
（ふじの　まさし　運営課）

Government Publications relating to Nigeria, 1862-1960. Annual Departmental Reports Relating to Nigeria and British Cameroons, 1887-1960.**（英領ナイジェリア政府文書集・各省報告書）**
351 reels. **マイクロ・フィルム版**

山　本　亜希子

現在、世界は実にさまざまな問題を抱えている。民族対立、地域紛争、核兵器、武器輸出、貧困、飢餓、難民、人口問題、都市問題、資源・エネルギー、環境問題など、数えきれないほどの難問が存在する。これらの多くは、先進工業国と発展途上国との間での経済格差や関係のあり方と不可分のものである。

18世紀中頃から始まった産業革命により、イギリスは、世界商業の支配権を握り、19世紀に世界で最も栄えた国家となった。このようなイギリスを始めとして、欧米諸国における産業革命の進展は、世界的規模で原料の供給地と製品の市場の開拓を推し進めた。また、交通・運輸機関の発達は世界各地の距離を短縮し、原料や商品の流通を速めた。こうして、世界は一体化していく傾向を強めたが、同時に世界は、工業化を実現し工業


GOVERNMENT GAZETTE.
COLONY OF LAGOS.
THURSDAY, 28TH FEBRUARY, 1889.
INDEX.

Individual or Subject.	Paragraph.	Date of Gazette.	Page.
A			
Alien Children—Return of	109	Feb. 28	74
Anderson, F.—Departure for the Eastern District	89	" 28	56
" " Return from		" 28	
Animals imported during the month of February	7	" 28	
Animals slaughtered at the Public Slaughter House during February	117	" 28	80
Appointment—W. R. Higginson as District Commissioner Badagry	114	" 28	77
Assize—Calendar of prisoners tried at the February	30	" 28	57
Auctioneers' Licenses...	116	" 28	81
	104	" 28	72
B			
Births, Marriages, and Deaths—Return of...			
Bar-Licence-Prohibition against the erection of	112	" 28	76
Boats and Canoes Licenses—Date of renewal of	85	" 27	57
Bonded Stores—Return showing Owners of private... ...	83	" 26	57
Bonded Warehouse—Receipts and Issues into	94	" 28	68
Butchers Licensed to sell at the Public Meat Market during February	93	" 28	62
	115	" 28	56
C			
Calendar of Prisoners tried at the February Assize ...	118	" 28	81
Canoes and Boats licensed—Date of renewal of	83	" 27	57
Canoes licensed to carry passengers and Cargo.	123	" 28	56
Circular Dispatch-Secretary of State's Relative to the non-payment of advances made to mechanics on temporary engagements dying before reaching their destinations	88	" 28	58
Cole, G. J.—Granted a fortnights' leave of absence	89	" 28	58
" Resumption of duty...		" 28	58
Commercial Importance—Correspondence on the subject of the files	27	" 28	53
Commission appointing Mr. Higginson to act as D. C. for Badagry	90	" 28	58
Constabulary—Record of Charges during February	91	" 28	59
Consuls of Foreign Countries residing in Lagos	108	" 28	73
Criminal Prisoners who have escaped from prison and remain yet at large—List of	116	" 28	81
Criminal statistics for February	119	" 28	83
D			
Dawson, O. C.—Proceeded to the Eastern District	89	" 28	58
" Return from		" 28	58
Departmental Instructions—Relative to the payment of moneys for Public purposes	26	" 28	53
Diseases Fish Inspection		" 28	58
Dispatches		" 28	58

製品を供給する北の国と、封建的な生産関係のままで、茶、生糸、綿花や石炭、鉄鉱石などの原料を供給するアジア・アフリカなど南の国に２分されることになった。工業国は、やがて工業製品だけでなく資本も輸出するようになると、その安全を求めるため、武力を背景として、アジア・アフリカ諸国に対する支配を強化していった。このため、それまで独立国であった国々も、主権を失って植民地となったり、経済的従属を余儀なくされることになった。産業革命は、世界的に見ると、工業国が発展途上国を経済的に支配する世界資本主義体制が成立する契機となり、それによって、今日の南北問題が出現する一因となった。

アフリカを「世界の中のアフリカ」として捉えた場合、上記のように、稀少な鉱物資源や農産物の宝庫として、東西世界の思想闘争の舞台となっているばかりでなく、南北問題を考える上で、貧困と低開発、そして政治的混乱との悪循環が進行する地域として語られることが多い。また、従来、ややもすれば西洋はアフリカに文明をもたらし、その逆はないように考えられてきた。だが、アフリカ諸国の独立以後、自らの過去に対する認識が高まり、数多くのアフリカ人史家が現れ、自分達の歴史に対する自信を取り戻そうとして多くの成果が生まれた。そうして、近年、アフリカ史や現代アフリカ問題への関心が日本においても高まってきている。今後は、「世界の中のアフリカ」を見るだけでなく、「アフリカの中に世界」を見るという視角が求められているといわれている。

ところで、イギリス領アフリカ植民地諸国における経済的・社会的発展、または植民地政策の研究にとって、最も重要な基本的資料は、各地域の植民地政府の報告書である。英国アフリカ学会および王立アフリカ協会は、英領アフリカにおける植民地政府の文書集成を刊行してきた。本英領ナイジェリア植民地政府文書、および各省報告書は、とりわけ重要な位置を占めている。政府文書には、年次報告書、ブルーブック、官報、貿易報告ならびに当該地域に関するイギリス本国議会報告書（コマンド・ペーパー）が収録されており、また、植民地政府各省年次報告には、行財政、司法・警察、公共事業、産業など植民地経営に関わる各種報告書が収録されている。また、落花生、パーム、ココアなどの輸出農産物の集荷・輸出を管理したマーケティング・ボードの年次報告書もここに収められている。本報告書を総合的に研究することによって、次のような課題解明への道が拓かれる。

⑴　イギリスにおける政治、経済、社会の歴史的研究だけでなく、イギリス帝国と植民地の結合構造、ひいてはヨーロッパにおける政治経済関係の実証的研究（イギリス史、コモンウェルス史、ヨーロッパ社会経済史）

⑵　英領西アフリカを中心にしたアフリカ大陸内部の諸地域間の政治・経済関係のみならず、対外的諸関係（南北アメリカをはじめとする非アフリカ）の解明（国際関係の歴史、現状および構造）

⑶　アフリカ大陸諸地域を含む発展途上地域の開発政策に関する総合的研究

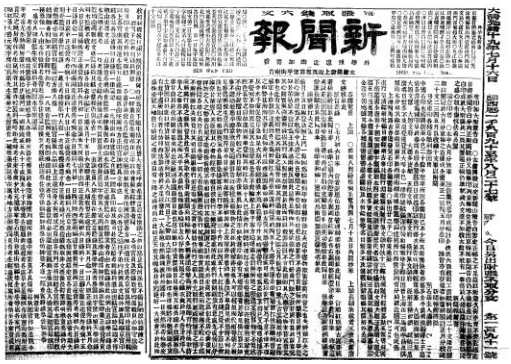
参考文献

J.F.マンロー『アフリカ経済史』北川勝彦訳　東京　ミネルヴァ書房　1987

（やまもと　あきこ　運営課）

新聞報　1893-1949
526 reels.　**マイクロ・フィルム版**

松　井　真由美


新聞報

このたび、関西大学図書館の蔵書に、19世紀後半から20世紀半ばまでの半世紀にわたって上海で発行された代表的な新聞『申報』*に続き、同時代のリーダー的存在の日刊新聞がまた一つ加わった。今回、紹介する『新聞報』がそれである。

中国の近代新聞としては、清朝末期に中国に来た外国人宣教師によって、初めに伝道を目的とした宗教月刊紙、次に一般商業新聞が作られた。『新聞報』は後者にあたる。

同紙は、1893年２月17日、上海に於いて創刊された大衆向けの社会経済関係の記事を中心とする中国語新聞である。当初は、中外合資の共同経営で刊行されたが、汪龍標に経営を委ね、中国の諸新聞のうち最初に経済的独立を得たといわれている。欧米会社の経営に移行後は、無偏、無党で経済独立を標榜し、文字通りリベラルな経済紙として発展を遂げていき、中国全土の経済界に多大な影響を与えた。

発行部数は、中国で初めて輪転印刷機を導入し、1925年頃には、日本の当時の新聞と比較すると部数は少ないが、一時は15万部にも伸ばし、中国最大の発行量を誇っていた。日中戦争の間は、発行部数が８万部（1937年頃）に落ちたが、抗日的色彩を表にあらわさず、社説なしの論調で刊行を続けた。

収録範囲は、1893年２月17日の創刊から1949年５月27日までの56年間にわたり、若干の欠号部分を含むが、通算18676号に及ぶ。

内容は「上諭及び一切の緊急事務はすべて電報で伝来され詳細に翻訳する」と第１号の「本館告白」に記している。このように、創刊当初は、清朝政府の皇帝の上諭や国内諸地域のニュースは電報を利用して収集し、上海だけでなく、「台湾官報」「朝鮮入貢」などの見出しからもわかるように、国外関連のニュースも翻訳して掲載している。たとえば、高麗新聞紙の記事があり、「多財善賈」と題して朝廷が高麗にいる中国商人に、銀20万両を融資したと書かれている。その他の雑事としては、「南昌雪電」とあり、南昌という場所で雪が一尺ほど積もった、などとある。さらに、創刊号には、かつて「茶園」と呼ばれ、親しまれていた小劇場の広告が７点もあり、そこには出演者の名が紹介されており、当時の中国特有の豊かな芸能のにおいを紙面から感じ取ることができる。

また、中華民国成立（1912年）をきっかけに、趣味性、知識性、通俗性を取り入れて、紙面を面白くする工夫をし、民衆の関心を呼んだ。俳優の写真が入った映画広告が幾種類も掲載されている。変わった広告としては、「感謝世医」とある。これは、病気が治ったことを知らせて名医の紹介ともなる感謝状である。その他、「訂婚啓事」「結婚啓事」「離婚啓事」と言った、いわゆる婚約、結婚、離婚のお知らせや、結婚紹介会社が出した広告、石炭燃料や飛行機、船の切符の販売広告など、まさに様々な広告が多くの紙面を占め興味をそそられる。このように、広告業務にも力を注ぎ、政治・経済の枠を超えて文化的な要素が強くなった。広告の中では、特に薬局・医者・占い師が出したものや宝くじなどの広告は創刊当初から目を引く。

広告以外では、米が値上がりしたことの記事やピンポン、サッカーなどのスポーツニュース、天気予報、重慶でカエルが4000匹も死んでいた、との日常的な出来事も多く掲載されている。

1949年５月24日までの紙面には、共産党反対のスローガンが、第一面下方等に掲載されていたが、翌日25日からは、国民党から共産党を支持する内容に様変わりした。そして、その２日後の1949年５月27日号には、「上海全部開放」との第一面大見出しとなり、停刊**に至っている。

当時の発行地、上海は、アヘン戦争以降、イギリスをはじめとする西洋諸国が進出し、対外開放された開港場の一つで外国人が入域する国際都市となった。その新文化の影響を受けて新聞が創刊された。また、当時の上海は、香港に次ぐ新聞発行の中心地であり、欧文新聞の翻訳ではなく英字紙をモデルに中国語新聞が相次いで刊行された。

本学図書館には、この他に上海で刊行された新聞として、『時報』（1904-1939）、『中外日報』（1898－1910）

などの中国語日刊新聞の他、North China Herald（1850－1941）, North China Daily News（1866－1951）のマイクロフィルムの所蔵がある。

新聞は、継続的に長期にわたり刊行される生きた資料であり、また、文化史の一面として非常に貴重な記録である。『新聞報』は、中国近代の政治史、経済史、文学史の面からは勿論のこと上海の市民生活、文化、風俗の研究にも格好の資料の一つとなる。同紙はこれまで日本国内で閲覧が極めて希であったこともあり、今後大いに利用していただきたい。

*　1872年、英国商人メジャーが創刊。当館には上海店発行の影印版を全巻所蔵している。

**　1949年５月27日号には、停刊の挨拶文やそのお知らせの記事は見当たらない。
この号が最終号であるかどうかは紙面から見る限りわからない。

参考文献

牛島俊作『中国の新聞』日本新聞協会　昭和25

（まつい　まゆみ　閲覧参考課）

The French Revolution Research Collection **（フランス革命研究コレクション：基礎資料編）**
4 sections. 5291 fiches.　**マイクロ・フィッシュ版**

広　瀬　雅　子

フランス革命は、同時代のヨーロッパのみならずその後の世界の各地に影響を及ぼした、世界史的な大事件であった。

文部省の助成金をうけて一昨年に本学図書館が購入した本コレクションは、フランス革命200周年を記念してフランス政府の全面的な支援を受けて企画されたもので、フランス革命研究にかかわる貴重な文献を多数集めたマイクロ資料である。

フランス、イギリス、アメリカ、日本など世界７カ国から集まった一級の研究者が組織的、系統的に検討を重ね、編集作業をすすめた結果、印刷史料を主とする100万頁以上ものオリジナル史料（一部手稿も含む）を、「基礎資料編」と「テーマ別編」の２つのパートに分けることになった。今回本学が購入したのは、その内の共通コア部分にあたる「基礎資料編」で、「新聞」、「回想・自伝」、「基本的な刊行史料」、「文献目録・所蔵目録」の４セクションに分けられている。

こころみに「新聞」のセクションを見ると、後に山岳派の指導者の１人となるマラーが革命の初期から発行していた『人民の友』（L'Ami du peuple）とその後継紙や、軍隊でも配布されて革命期の新聞として引用されることの多いエベールの『ペール・デュシェーヌ』（Je suis le véritable Père Duchesne, foutre!）が、ほとんど欠号なく揃っている。このほか、プリュドムの『レヴォリュシオン・ド・パリ』（Révolutions de Paris）やジロンド派の指導者ブリッソーの『パトリオット・フランセ』（Patriote français）のようにパリで出版された15紙に加え、リヨン、マルセイユ、トゥールーズ、ボルドー、グルノーブルなどフランス各地で出版された26紙も取り上げられており、パリ偏重をさけて、地域ごとの多様性をつかめるよう配慮されていることが窺える。

また「文献目録・所蔵目録」のセクションには、各種の文献目録類やこれまで入手しにくかった各地の図書館、文書館、史料館などの所蔵目録が広く集められており、このコレクションで印刷史料の調査を済ませてから手稿史料などにとりかかる際にも、その下準備を進めるのに効率的な調査手段を提供してくれている。

オリジナル資料の所蔵館は、フランス国立図書館をはじめ、フランス国立文書館、大英図書館、ニュー・ヨーク・パブリック・ライブラリー、シカゴのニューベリー図書館やハーバード大学のワイドナー図書館など世界各地に及んでいる。

（ひろせ　まさこ　閲覧参考課）

農業センサス「農業集落カード」1995年版
8枚　CD-ROM版

榊　原　和　弘

Census／センサス

古代ローマ帝国では、ローマ市民の数、市民の担税力、１家族から何人徴兵可能かなどの市民原簿登録を行ない、帝国の運営を図る課税と軍事奉仕の基礎として、定期的に調査を行なっていた。その統計調査をラテン語でケンスス（Census。英語「センサス」の語源）といい、のちに大規模な人口調査、あるいは全数調査をさすまでとなった。

「Census」の一語が消滅することなく、ある国家や組織の構成員および構造を把握する意義と、統計調査の重要性をいまに伝えているように、農業の世界においても、食料の安定供給をはじめとする、地域社会の発展、自然環境の保全などの側面からセンサスは不可欠な調査となっている。農業の国勢調査として知られる農業センサスは、日本では農林省主導により、1938年に農家一斉調査としてはじめて実施されているが、農家の経済的性格の変化、農業生産構造の変化を包括的に把握することを目的とし、FAO（国連食糧農業機関）が世界規模による実施を提唱した1950年から、わが国も本格的に参加するようになったのである。

データ

農林統計協会編『1985年農業センサス読本』（1984年10月発行）によると、「統計でとらえた数値は投網に入った魚の数のようなもの」である。統計調査における４つの必須要件、いつ（時間）、どこで（場所）、なにが（標識）、いくつ（単位）のうち、標識は網目の大きさを意味する。目の大きすぎる網を海に投じるとほとんどの魚を逃がし、数値的に曖昧な結果をもたらすことになる。また逆に目が細かすぎると、専門家でしか見分けのつかない雑魚が混じって調査誤差を引き起こしかねない。すなわち、適切な網目の大きさで標識を定義しないと、捕らえた魚は現実的な調査結果として朝のマーケットに並べられないことになる。「標識」さえ決まれば、おのずと単位も定められ、「稲を作った田」の標識に対する単位はha（ヘクタール）、a（アール）となるわけである。

「農村の地域社会における最小の単位」として存在する農業集落は、農家が実生活を営む社会集団であり、おのおのの農家が所有する散在した耕地を空間的にまとめあげる地理的単位でもある。農林水産省では、1970年以降、５年毎に、約14万の農業集落を対象に農業センサスを実施し、だれが世帯主を務め、どれくらいの広さの土地を用いて、どんなたぐいの農作物を作り、いくらの販売実績を収めているのか等々の詳細を、調査データ「農業集落カード」として整理、統合し、農林統計協会が磁気テープやフロッピーディスク（マイクロフィッシュ版は1995年より提供中止）などを媒体として提供している。

関西大学図書館が所蔵している1995年農業センサス農業集落カードは、1970年から６回分のセンサス結果をデジタル化して収録したCD-ROM版で、随所に電子媒体ならではの点が見うけられる。北海道から九州まで、エリア別に分類された８枚のディスクのなかから、みずからが検索対象とする地域を選択して起動させ、「都道府県」→「市区町村」・・・→「集落」といった各項目を任意指定するのみで、時系列での検索、比較も対象に含めた膨大な情報のなかから、目的とするデータを抽出することが可能である。システムでの一連の動作はマウスのクリックのみでほぼ全ての処理が完了し、検索結果はCSV[*1]形式で保存され、Microsoft Excel（マイクロソフト　エクセル）などの表計算ソフトを使ったデータの加工も容易に行なうことができる。

電子の逸品

1993年のGATT（関税および貿易に関する一般協定　General Agreement on Tariffs and Tradeの略称）におけるウルグアイ・ラウンド農業合意により、わが国の農業はいっそうの変容を見せはじめ、これまでになく厳しい国境措置の下に置かれることとなった。1995年より米のミニマム・アクセス（最低輸入量）＊2が開始され、食料増産から輸入自由化へと農業構造が変化していることは周知の通りである。農家数が年々減少するなかで行なわれる農業経営の組織化や法人化。農業就業人口の地域格差の広がり。農業従事者の高齢化。これらの現象が如実に示しているように、農業の将来と農政の新しいあり方が問われる時代であるからこそ、多様化したデータを迅速に、そして包括的に検索できる図書資料が必要なのである。本学図書館が新たに所蔵したこの電子資料の利用頻度が顕著で、利用者への貸し出しに追われながら、うれしい悲鳴をあげる日々が続くことからも、その資料価値の高さはつとに知られているはずであるが、先の見えない農業情勢を考えながら集落カードのディスク８枚を眺めてみると、数あるCD-ROM資料のなかでも逸品であるように思われてならない。

＊１）CSV（Comma Separated Value）形式
ファイルにデータを記録する時のフォーマット。１レコード内のデータをカンマで区切って１行に並べる。データベースソフトなどで広く採用されている。

＊２）ミニマム・アクセス（Minimum Access　最低輸入量）
1986年９月～1994年４月に行なわれたウルグアイ・ラウンド農業交渉の決定にもとづいて日本が受け入れた米輸入の部分的開放。1995年４月から国内消費量の４％(37万９千トン）を最低輸入枠と定め、恒常的に拡大していき、2000年には８％(75万８千トン）まで引き上げることが義務づけられている。

参考文献
農林統計協会編『1985年農業センサス読本』東京　農林統計協会　1984
岩波書店編集部編『近代日本総合年表』第３版　東京　岩波書店　1991
参考ホームページ
農林統計協会　http://www.aafs.or.jp/front.html
農林水産省　http://www.maff.go.jp/

（さかきばら　かずひろ　運営課）

平成10年度に文部省より補助金を得た資料は、以上の７点と下記の２点である。

The Eighteenth Century.**（18世紀英語出版物コレクション）**
Unit 249-270. 770 reels.
『籍苑』第38号「マイクロ・フィルム版18世紀刊本文献集成」参照

CIS Microfiche Library.**（米国議会委員会刊行物総集成）**
1997. 6,780 fiches.　**マイクロ・フィッシュ版**
『図書館フォーラム』創刊号「アメリカ議会資料ＣＩＳ資料について」参照